

青山同窓会
会報

発行所
青山同窓会
新潟市関屋下川原町二
新潟高校内

印刷所 **オリオン印刷機**

巻頭言

同窓会というもの

副会長 **阿部 藤策**

創立八十周年の記念行事をめでたく終えて、今年の総会は、安心して気持ちで迎えることができる楽しい会合であると思います。創立記念事業も母校発展のため、在校生諸君の福祉のためのいろいろな計画が実施され、また、その緒についたことは同慶に存じます。このことは、学校関係の先生方をはじめ、PTAや、県教委や地域の方々の御援助と相まって、同窓会員の皆様から莫大な寄与をいただいたことが成功の基であったことを考え、感激にたえません。やがて、一万になろうとする同窓会、卒業生を擁する高校としては、むしろ、あたりまえかもしれません。その善意の集積は、結果論では、そうであっても個人々々の参加と努力を詳細にしろ、まずと決して、あたりまえではありません。世論調査のように、同窓会の評価を委員会に求めたなら、どのような結果が出るかわかりませんが、推測すると、あまり感心できないように思います。お互いに身におぼえのあることは、同窓会は何かあると、金集め、寄附募集につながるのではないかと。古い同窓は六十周年、七十周年、八十周年と、その度ごとに、千円、五千円、一万円ととられている。とられるという表現は適当ではないのですが、寄附はとられるのでなくて、自ら進んで出すものでなければ、税金のように、自分のふところに貯めておいては、頭からわりあて、いずれにしても、寄附して下さった多数の方々には、そんなことはどうでもよい、立派な献金であって、応じない人に比べれば、天と地の相違である。いや、応じない人も全く意志がなかったとはいえない。寄附しなくても同窓会員であることに変わりはない。総会に出席していただくことでよい。ある高校の同窓会は卒業時の入

が生れないこともある。この点も近年次第に改めて、若い同窓会副会長をあげて、縦のつながりを強めることが多くなった。在学中の上級生は、私たちの明治、大正にはまことに、おっかない兄貴やおっさんであったから同窓会にもその威圧が残るおそれがあったが、これは予想に反して、在学中の豪傑は、凡そ円満寛容の風格をそなえて、後輩を叱咤激励するようなことはすくない。鬼のように怖れた恩師でも同窓会でお目にかかると好々爺になられて、われわれの皇上したニックネームにも笑って懐古談をされることが多い。こんなところが、同窓会の評価としてよいところであり、友達同志でも、人間の真面を見抜けなかつた若い時代に比べて、「ああ、あいつは偉い奴だったのだ」と敬服することもしばしばである。社会人として職業や仕事の中で同窓、遊びの中の同窓、毎日、顔を合せる間柄では、同窓意識も空気のようになるが、何か事ある時には、血は水よりも濃いといった関係がよみがえってくる。いまはなき前の幹事長、斎藤氏が外科手術をうけた新大外科の諸先生が、われらの同窓であったことにどれほど信頼をよせていられたか、忘れられない一事であったと附記して、終りに致します。

してよいところであり、友達同志でも、人間の真面を見抜けなかつた若い時代に比べて、「ああ、あいつは偉い奴だったのだ」と敬服することもしばしばである。社会人として職業や仕事の中で同窓、遊びの中の同窓、毎日、顔を合せる間柄では、同窓意識も空気のようになるが、何か事ある時には、血は水よりも濃いといった関係がよみがえってくる。いまはなき前の幹事長、斎藤氏が外科手術をうけた新大外科の諸先生が、われらの同窓であったことにどれほど信頼をよせていられたか、忘れられない一事であったと附記して、終りに致します。

自分の道をきり拓いてゆく意欲がほしいと思います。自らが自らの人生軌道を発見してくれること、そのために、謙虚でお、らかな視野をやしなってくれることを希っています。多士済済だった先輩たちのあとをうけて、生来の呑気坊、加うる

に老来耳をそこねている身で、はたしてどこまでやれるか。われながら心もなない次第ですが、関係の方々の率直な御意見、御指導をおおきながら努力したいと思えます。とくに同窓の方々の御世話になることが多いと思います。よろしく御願いたします。

この四月から御厄介になることになりました。新潟は一度のつとめですが、新高ははじめてです。県下高校初の鉄筋校舎も、当時の建築資材等の関係もあつて、今では改築に近い修理を必要として



この四月から御厄介になることになりました。新潟は一度のつとめですが、新高ははじめてです。県下高校初の鉄筋校舎も、当時の建築資材等の関係もあつて、今では改築に近い修理を必要として

いますし、二四学級の建物に二〇学級を収容している現況では、早急に新しい校舎の増築も考えねばなりません。学園の環境としては必ずしも十分とはいえませんが、さいわいに、校内は人の和もよく、明るい雰囲気につ、まれています。県都で他県との人事交流なども多いせいか、生徒も朗かで積極的のように見うけられます。慾をい

いますし、二四学級の建物に二〇学級を収容している現況では、早急に新しい校舎の増築も考えねばなりません。学園の環境としては必ずしも十分とはいえませんが、さいわいに、校内は人の和もよく、明るい雰囲気につ、まれています。県都で他県との人事交流なども多いせいか、生徒も朗かで積極的のように見うけられます。慾をい

いますし、二四学級の建物に二〇学級を収容している現況では、早急に新しい校舎の増築も考えねばなりません。学園の環境としては必ずしも十分とはいえませんが、さいわいに、校内は人の和もよく、明るい雰囲気につ、まれています。県都で他県との人事交流なども多いせいか、生徒も朗かで積極的のように見うけられます。慾をい

私がこの学校に着任したのは、学校封鎖のあつたつぎの年で、校内には未だ当時の余じんが残つていた頃でありました。今にして思えば、一般の生徒の空気はすっかり落ちついていたのですが、校内に時々わねりがあると、風のあとの余波と考えないで、また新しい低気圧がでたのではないかと思つたことも決して少なくなかつたと思います。目の前の現象は、過去ににが経験があると、悪いように悪いようにと解釈し勝なもので

私がこの学校に着任したのは、学校封鎖のあつたつぎの年で、校内には未だ当時の余じんが残つていた頃でありました。今にして思えば、一般の生徒の空気はすっかり落ちついていたのですが、校内に時々わねりがあると、風のあとの余波と考えないで、また新しい低気圧がでたのではないかと思つたことも決して少なくなかつたと思います。目の前の現象は、過去ににが経験があると、悪いように悪いようにと解釈し勝なもので

私がこの学校に着任したのは、学校封鎖のあつたつぎの年で、校内には未だ当時の余じんが残つていた頃でありました。今にして思えば、一般の生徒の空気はすっかり落ちついていたのですが、校内に時々わねりがあると、風のあとの余波と考えないで、また新しい低気圧がでたのではないかと思つたことも決して少なくなかつたと思います。目の前の現象は、過去ににが経験があると、悪いように悪いようにと解釈し勝なもので

そうこうしているうちに、八十周年記念式典の話がでたり、記念事業のことが話題になるようになりましたが、当日一部の生徒であつても騒ぎを起すような心配がないわけでもなかつたので、それでは申訳けないので、更に一段と生徒の気分を明るくするにはどうしたらよいか、ということについて先方と真剣に検討したこともあつたかと思つています。それが大変うまくいって、ほつとしたのでし

そうこうしているうちに、八十周年記念式典の話がでたり、記念事業のことが話題になるようになりましたが、当日一部の生徒であつても騒ぎを起すような心配がないわけでもなかつたので、それでは申訳けないので、更に一段と生徒の気分を明るくするにはどうしたらよいか、ということについて先方と真剣に検討したこともあつたかと思つています。それが大変うまくいって、ほつとしたのでし

そうこうしているうちに、八十周年記念式典の話がでたり、記念事業のことが話題になるようになりましたが、当日一部の生徒であつても騒ぎを起すような心配がないわけでもなかつたので、それでは申訳けないので、更に一段と生徒の気分を明るくするにはどうしたらよいか、ということについて先方と真剣に検討したこともあつたかと思つています。それが大変うまくいって、ほつとしたのでし

(一頁よりつづく)

よか、当日はいつになく酒をす
ごして、うちの生徒は天下一だど
威張って寝つかすのに苦勞したと
のことでした。思えば、当日の酒
は、生涯のうちに一番美味しい酒
だったと思います。

それにしても、万事うまくいっ
たのは、式典も事業もすべて生徒
のためという皆様の一致したお氣
持が、全校の生徒に反映した結果
であったと思います。会館、歌碑
記念誌、音楽会等のことが具体的
になるにしたがって、生徒の間に

追悼特集 故斎藤希式君を偲んで

30回 渡辺浩太郎

新潟市長

ここに慎んで故斎藤希式君の靈
に弔意を表します。
彼との出会いは私の記憶にない
ほど遠い昔であったように思いま
す。ずいぶん長いおつきあいでし
た。あれこれ思い返される中で、
あの飄々とした風貌の彼が、呼べ

皆様の真意が滲透して行った賜で
あったと思います。先輩というも
のは有難いものだということを生
徒は痛く程感じんじとっていたと思
います。

死が未だに信じられません。
無口で温和な人柄の反面、氣骨
があり、情熱の人であった彼を語
るに、まず、同窓の士として、彼
が、こまなく母校を愛していたこ

とをあげねばなりません。
同窓会の役員として、長い間
要職にあつて組織を円滑に運営し
一層の充実をはかつてくれました。
こまめに、東に西に奔走していた
姿が浮かんできます。同じ学舎の
出身といえ、先輩、後輩、各界各
層と千差万別の大世帯をきり廻し
てきた彼の足跡は、永久に青山同
窓の会史にとどまるものと私は信
じます。

彼がまた演劇に深い造詣を持っ
ていたことを私は知っておりまし
た。有志を統合し、この道に専心し
ていた。彼は、新潟の演劇界の草分けであ
り、よきリーダーでありました。
繊細な思考と厳しい探究の心を舞
台の上に求めた彼らにさがにじみ
出た生き方だと思ひます。
また社会教育にも彼は深い関心
を寄せ、ときには先頭に立ち、あ



ありし日の斎藤幹事長

るときは地道な土台役を担当し、
身を挺して励んでいました。
こうした彼の教育、文化に対する
活動は、それが彼自身の実人生
であったものと思ひます。葛藤織
りなす人間社会の中で、純粋な姿
を求め、美しい詩をうたい続けた
情熱のロマンチエスを彼の中に
見出すこともできました。

彼がまた演劇に深い造詣を持っ
ていたことを私は知っておりまし
た。有志を統合し、この道に専心し
ていた。彼は、新潟の演劇界の草分けであ
り、よきリーダーでありました。
繊細な思考と厳しい探究の心を舞
台の上に求めた彼らにさがにじみ
出た生き方だと思ひます。
また社会教育にも彼は深い関心
を寄せ、ときには先頭に立ち、あ

名幹事長 斎藤さんを偲ぶ

28回 阿部 策

斎藤希式さんを知った始めは、
演劇関係からで、卒業以来、新潟
を離れていた私には、それ以前の
交友も意識も記憶にない。したが
って、小さなステージの上で、チ
エホフの「熊」を演じている男性
の強烈な迫力や演技に目をみはつ
ただけで、その男性がいかなる人
物かについて詮索することなしに
別れてしまったのが最初の出会い
であった。

戦後、古町の書店経営の人が、
偶然、青少年の教養刊行物の仕事
で再会した斎藤さんで、戦後の混
乱の中で、いち早く、青年の教
養の空白を埋めるために学習の講
義録的なものを作ることに着眼し
て、その出版、刊行の相談をうけ
たのがこの時であった。比較的
近い村上に勤務していたために、
時々新潟へ出向いて古町の店に斎
藤さんを訪ねた。その次は、母校
の火災後となる。鎌倉同窓会長が
復興期成同盟を組織して、石川校
長や、同窓、PTAの有志を集め
再建の大事業を促進する為に奮闘
される。ここに斎藤さんが頑張っ
ておられたのである。石川校長時

私はいつも胸襟を開いて受け止
めてきましたが、なによりも彼の
真摯な態度と市政を思う心に深い
敬意を持ったことでした。
その彼が病床に伏し、一度は健
康を取り戻したかのように元氣な
姿を見せてくれましたが、不治の
病は彼に一服の小康をあたえたに
過ぎませんでした。

代の斎藤さんは、同窓、PTA、
そして戦後復興の回天の事業とも
いうべき政治活動のうら方として
も小沢辰男氏の片腕として活動
つづけられた。めぐりめぐって石
川校長の後に、思いがけない運命
が、筆者を待っていた。長岡高校
から新潟へ転任という予期しない
一身上の出来事も、母校への赴任
と、その復興という重大な責任に
興奮と不安を抑えきれなかった自
分も、同窓会長の温容、斎藤さん
の熱烈な青山魂を思ひ浮べて欣然
青山の土をふむことが出来たこと
は、わが一生の中で、最高、至上
の一頁を録することが出来たこと
と感激していることである。

斎藤さんがPTA会長であり、
同窓幹事長であることの事実は、
母校再建の重大な鍵を握ることで
あり、その熱情と決意は、関係者
一同を奮起させる異常な力となっ
て、創立七十周年を目前に、残さ
れた復興事業の一つ、青陵健児の
殿堂として一大体育館を建設する
事業が始められた。唯、それだけ
ではない。新学制の発足以来、高
校の性格が進学偏向の予備校化、
学力偏重、受験万能、自由主義の
行き過ぎ等々、身心両全の人間形
成を誤る風潮は、全国を風靡して
いる。斎藤さんは人も知るスポー
ツマン、かつての名捕手、社会人
としては文化活動のベテラン、昔
風に青山を謳歌すれば、軍国主義
のそしりをうけるが、かつて校歌
(われわれの時代にはまだ校歌と
いうものはなかったが)に類する
もの、学びの業は、アゼンスの、

尚武の風はスパルタの、わが青山
の健児等が、か、ぐる、あかき灯
は...とあつたことを忘れぬ。自
由民主の中に高校青年の心身を鍛
えることは、これからの日本復興
にとつて必然的な方向づけでなけ
ればならない。当時、名門校とか
優秀高校とは進学率を一つの要素
としていた。スポーツやクラブ活
動は不振をまぬがれない。青山健
児と誇称すべき何ものが残されて
いるか。スポーツは他校の後塵を
拝しているではないか。進学率も
停滞している。

しかし、幸なるかな七十周年を
期した年は、全国高校インターハ
イ出場クラブを、わが新潟校は
六クラブを占め、未だかつてない
成績をあげ、その前、全国高校選
抜スリリングに優勝した。斎藤さ
んが、このとき、例の細い眼をく
しゃくしゃくにして喜んだ顔、それ
を忘れることができない。PTA
や同窓がその為に応援を相ついで
おられたことは数々のめぐり合
せであったにすぎぬかもしれない。
しかし、単なる偶然ではない。斎
藤さんは、明治の終り、大正の始
め、われわれと同世代の人であつ
たから、往年の青山健児として心
相通じたというだけではない。その
一生を通じて、自由の中に不屈の
魂をこめて、果敢実行の信念を貫
ぬいた。友誼を篤く、人の為に我
を捨てること、縁の下の方力持ち、
己を後に人を先に。その斎藤さん
をうしなつた今、万斛の涙のみ、
冥福を祈る。合掌。

希式夢幻

32回 星野恵五郎

(株)星野鉄工所社長

◎齋藤は文化人だった、が世渡りのすべを何も知らない。従って知人のあちこちに迷惑を掛けた男だ。だが不思議にあいつのこと、なると迷惑と感じなかった。「俺は文化的、高等の仕事をしているのだ。汝等後援せよ。」てなもんである。しかし我々友人は彼に何を云われても後口がよかつた。彼の恬談たる性格のためだろ。『今良寛』だ。

◎彼は純情家だった。馬鹿みたいに一事に熱中する。我々は彼のこの純情を愛した。だが世間ではこれで通らぬことが多い。我々は彼を説得し、時には怒声も張り上げた。その時彼は我々を「俗物」の一語で軽蔑した。しかし時には甘えん坊の彼を説得しようと懸命に話合った。だが頑固なまでに自説を通す彼に我々は遂に屈服し、「彼の如き珍種は我々の中、一人くらいあつてよからうか」と俗物共は苦笑し合った。

◎彼は正義漢だった。我々が商売関係などで変な話をしていると隣で聞いている彼は「きたない」と軽蔑した。我々はおかしかったが彼の純粋性を愛した。彼は何でも筋が通らぬと承知せぬ男だった。唯その筋は我々から見ると断片的で旧態依然、進歩性

き合う筈がないさ。

◎彼は終焉の直前坦然として「俺の持時間はこれで終りか」と云ったそうだ。彼らしい立派な大往生だったと想う。

南無阿彌陀仏
最後二先輩トシテ若キ青陵ノ健児ニ一言愚言ヲ呈ス。
今や過去百年ノ変革ガ五年吾ニ二年ニナサレル時世ダ。諸君等ハ之ニ如何ニ対応スベキカヲ情報ニ流サレルナ。自己ノ才能、立場ヲ認識シテ大切ナ自己ヲ「一般化」スルナ。深慮セヨ。

齋藤君と一諸に やつてきたこと

32回 小林力三

齋藤君とは礎小学校以来五十年以上の付き合いです。彼の性格は寡黙と饒舌が同居し、人間が誠実で純粹で、又少年の様な情熱家でした。彼は新潟中学校時代には野球の名捕手として活躍したのですが、それが崇ったのか卒業後背椎力リエスにやられ、長期の療養生活に入りまして、運よく全快し一時新潟市役所に勤めていました。その頃私の店は満州(現在中国の東北地区)や朝鮮相手の仕事をして人手が足りぬので彼に入院して貰いまして、一緒に新潟港の海運や港湾の業務に明け暮れて終戦を迎えました。

◎ところが終戦直後彼の文学青年的な情熱が沸騰して、演劇に熱を

合推進期成会を結成し、市民大会や街頭進出或は文書活動等を展開して、またはしばしば田中角栄氏を訪ねて援助を乞う等、側面から新潟大学の統合に協力してきたものですが、この運動の大きな推進力は齋藤君でありました。斯の様に同志として働いて呉れました齋藤君も昨年の病に冒され遂に帰らぬ人になつたのですが、発病以來となるまで新潟大学の長崎学長さんや武藤教授等の方々の特別の御配慮と御好遇には私共一同深く感銘していますが、これも

あげ市内の同好者とともに劇団を結成し、啓蒙的役割を果したものです。その劇団は新潟日報文化賞が制定されて間もない頃ですが、その活動を評価され彼が代表者として文化賞を受賞したこともありました。その頃ですが、彼の強い希望により、古町の目抜き場所である青山堂という書店を経営して貰つたのですが、大変繁昌したように見えましたが、大變繁昌したようには見えませんでした。

◎人が良いだけでは否人が良くては商売は駄目だということを両人は痛切に思い知らされました。しかし書店を開いていた時、会津八一博士が街に散歩に出られた折は休憩の場所として必ず立ち寄り

希式を憶う

33回 永井行蔵

彼の大学への貢献に酬いて戴いたものと思います。

◎昨今新潟大学は工学部の統合も近く、一層充実している今日、彼の魂は新潟大学の完全統合と発展を祈っていることでしょう。齋藤君はその他、母校の新潟高等学校への献身や好きな人の政治活動への貢献等は私から申す必要はないことですが、いずれの場合でも彼の如く己れを空しくして人に尽くすということは誰も真似のできないことと思います。惜しい人を失いました。

◎はあまりに憔悴した君の姿に驚き、すぐ帰宅して休養し、医師の診察を受けるようにと忠告した。青山会館の建設、会津先生の歌碑建立などさし迫った記念事業をか、えて、幹事長の要職にある君は、病軀を駆って随分無理を重ねたよう

◎二月の三会は例年より集りが悪かつた。欠席通知には病気を理由とするものが目立って多かつた。平均寿命は延びたといつても、さすが六十路を越えては方々に故障がおこるのもやむを得ない。

◎齋藤君はこの会に便箋一枚にわたる長文のメッセージを送つた。文面は、ガンのため大聖病院に入院、直ちに開腹手術を受け病根を切除した。現代医学の最高の技術による最善の手術を受けている。思いもよらず千俣の谷底へ落ちたが、幸いにして良国手にあい、目下その断崖を一步一歩よじ登っている。今の調子が経過すれば四月には退院できる見込みである。諸君も健康には十分注意されたい。なお同窓会の記念事業には三三もできるだけ協力してほしい。ざつとこんなことであつた。例の筆遣で、病中とは思われない張りのある文章であつた。

◎在学中は野球部の主将をつとめた。いかなる苦戦の最中にも、常に毅然として本塁を守り、ナインを叱咤した勇姿は、今もあきと眼前に浮んで来る。卒業後カリエスを煩い、長い闘病生活にもめげず、ついに難病を克服した比類なき闘魂の持主である。今度も必ず再起してくれるであろう。三三会一同はその日の一日も早からんことを祈つた。

◎予定よりや、おくれで退院、自宅療養に移つて我等一同慰問をひらいたのも束の間であつた。暑熱ようやく加わる頃から再び腹部に苦痛を覚え、秋再入院、遂に生きて我々の門をくぐる日はなかつた。一月十四日永眠。

◎齋藤君はよく人の世話をした人だつた。いつかの三三会で、「俺が一番おから死ぬ。皆の葬儀委員長は俺がひき受けた」といったのは彼であつた。十六日、本浄寺で盛大な、しかも清楚な告別式が行われた。式に参列した私は、三三会の葬儀委員長は一体誰に引継いだのだろうなどふと思つた。寒中ではあつたが今年も雪は全くなかつた。

◎せめて持て寒木瓜一枝朱一輪庭前の花一枝を供えて、釈真諦の冥福を祈る。

病室の豆餅

39回 福山 健

同窓会会計監事

齋藤さんの病氣見舞に参つたのは昨年の十二月、暮れも押し寄せました二十四日の日曜だった。うす日がさして静かな日だった。

念仏寺の上手の自宅から学校町を通り、昔の異人館の横を通りぬけて池原さんの銅像を左に見て病院に着く。

終戦後の一時期、古町に青山堂という小さな本屋を開かれた頃からの齋藤さんを思い出しながら……

長岡からまた新潟に戻られて二度目の新大入院、その後の病状もあまりよくないとのこと、学校事務室の岩田さんに病院は外科の四「二五号」と聞いてきたので、判つた。初めの入院室の向い側の個室である。「ごめんさい、福山です」と部屋に入る。齋藤さんは西枕に病床に横たわり、小柄なやさしそうな附添のおばさんが白いエプロンをつけて窓側に立っている。

「うん、福山君か」と齋藤さんは例の張りのある大声で返事しながらゆつくりと僕の方に顔の向きをかえる。

その声こそ生々として聞きなれた日頃のま、少しも変らないが、白い髪もお顔の色も面さしは既に

大患の後の衰えが明かである。病魔はすつかりこの意気旺々な先輩

齋藤さんもうゆつくり食べてしまつた。あまり長居もまずいと思ひ頃合いをみてお別れする。

「ではまた、豆餅うまかつたです」とじつかりと齋藤さんの右手を握る。齋藤さんは「うん、うん」と光りも声も一文字にむすんだ口元も日頃元気で居られた時のま、少しも変りないが腕の肉はすつかりおちて骨と皮だけの細さだ。最後まで気が力に溢れて、自分の生命の終りを静かに待つ……そうした姿にながめられた今更何が語れよう、ゆつくりとお顔をながめながら「齋藤さん、同窓会のこと本当に御苦労さまでした」と心のなかでお礼をのべてその細い手をはなし、病室を出た。

齋藤さんは僕の兄と同期の三十三回卒、小沢辰男さんの後援会の関係も深く、敬愛する先輩の一人であられたので、先年御依頼を受けて会計監事をお引き受けした次第。PTAの会長から同窓会幹事と僕の手を握りかえす。その目の光りも声も一文字にむすんだ口元も日頃元気で居られた時のま、少しも変りないが腕の肉はすつかりおちて骨と皮だけの細さだ。最後まで気が力に溢れて、自分の生命の終りを静かに待つ……そうした姿にながめられた今更何が語れよう、ゆつくりとお顔をながめながら「齋藤さん、同窓会のこと本当に御苦労さまでした」と心のなかでお礼をのべてその細い手をはなし、病室を出た。

齋藤さんの想い出

41回 萱野四郎

▽中学一、二年頃から、よく齋藤さんのお宅(自宅本町通三)に伺っていた。——礎小学校の先輩でいらつしたので……。そして、志賀直哉、夏目漱石の話の承り、安井曾太郎、原龍一郎の画集(アサヒグラフ)をみせていた。いたものだ。安井曾太郎の金簪(支那服美人の画)や、美事なバラの画ハガキをみせていた。いた記憶が

ハッキリとある。▽その頃のお話を具体的に覚えていっているのは、申し訳ないけれど、タツタ一つ……。甲信越代表戦(野球、齋藤さんは捕手)で松本商業と戦った時、松商は、袖のダブダブのユニフォームを着て出場した。そして、そのヒラヒラした袖に、我方のピッチャーの球をふれさせて、よくデッドボールをとって出塁し、とうとう二対一

(?)で先方が勝つて了つた。それを笑いながら、而も全く口惜しうに、「ホーンに、ヒドンだて……」と話された口調は、当時十年も昔のことなのに、奇妙にオカしくて、大らかでさわやかだった。明治生れの中学生の無邪気なパンカラを、相手にも認めておられたことなのだと思う。▽私が中学五年の卒業の前月の二月の事である。私は文科系の大学の進みかた許してくれなかった。毎日思い悩んでいたが、思い余って、二月の十日頃か、学校を早退して齋藤さん宅を訪ねた。

私の話を聞いて下さって、「よし、後は何とか我々(礎小学校の同窓の先輩)が引き受けるから、新潟高校を受けなさい」と云われた。そして私は、その後諸先輩の御指導にめぐまれて、大学まで卒業させていた。あの時の齋藤さんのお言葉は、私にとつて永遠に忘れることのない出来事である。▽齋藤さんは、スポーツを愛しておられた。協奏ランドで、対新商戦や当時の中等学校野球大会には、よく主審をしておられて右手を高くあげて「ストライク」としまつたお声は、今でも小生の耳に残っている。正確なハッキリした審判ぶりだ

教職員の異動

昭和四十八年度 四月一日付

退職	校長 菅原久夫	教諭 阿部 正	教諭 滝沢強一	教諭 小林和子	教諭 小林秀世	教諭 齋藤吾郎	事務局長 中村日出男	主任 源川精二	用務員 島倉要四男	転入 長岡高校より
校長 高柳 顕之	教諭 田村規矩夫	教諭 丸山哲男	教諭 田中英智	教諭 市村和雄	教諭 小畑 清	教諭 市立鏡ヶ岡高校より(通信)	事務局長 三ツ井富士夫	主任 早見高正	用務員 山口次郎	
	教諭 直江津高校より(全日)	教諭 新潟中央高校より(全日)	教諭 西川竹園高校より(全日)	教諭 新潟南高校より(通信)	教諭 十日町高校より(通信)	事務局長 早見高正	主任 大久保美雄	用務員 企業局総務課より	用務員 新潟東工業高校より	

▽又演劇もお得意で、礎同窓会の演劇にも出られたし、又、日報文化賞の土・長塚節原作に演出兼主演(勳次の役)をされ(昔の武徳殿で)仲々の名演技だった。▽若い頃、柔道で、カリエスを病まれ、麻酔注射もせず手術を受けたらたとう無類の忍耐力も持つておられた。人間性を尊重され、正義を愛され、はつきりした人生観を持つておられた。▽生死事大、無常迅速、齋藤さんの御一生を考えると、只この想いに尽きるが、ふとまた次の歌が自然に心に浮かんで来るのである。かたみとて何か残さん 春は花山ほど、ぎす 秋は もみち以上

画竜点睛

東京青山同窓会長

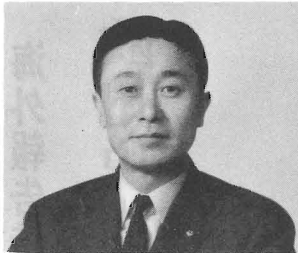
30回山添 直

小田急不動産取締役社長

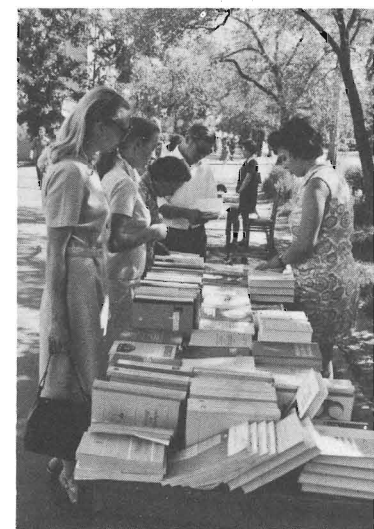
時差のかんげいから、約二十時間
のあいだ、飛行機のなかでちょ
つとまごんだばかり、それがた
づきまごとうずく。終日臥床。
つて、あくる日は眼がいたみだ
して、眼をあけることもできない。
カーテンをひいて室内を暗くして

おく。トイレに起きて電灯をつけ
ただけで、まぶしくて、しかも
が週に二、三日は起るので、とう
とう禍根を二掃しようと決心して
入院した。
面眼を緑内障のため失明した画
家、曾宮一念さんのずいひつ集に
「泥鰌のわた」というのがある。
中学時代の級友A君が私の緑内障
を心配して贈ってくれた。
「眼球を切り取るといっても二
方法あるのを知った。一つは眼球
全体を摘出すること、もう一つは
眼球は残してその内容を除去する
内容除去である。」私の場合は後
者である。「方法は白眼と黒眼の
境界あたりを切り抜いて内容を掻
き出しが終る頃から痛み始め、そ
の後の縫合となるとかなりの痛み
となつた……」
友人の親切から私は手術にとつ
てかなりの知識をもっていた。私
の場合は麻酔薬のさじ加減が多か
つたためか、手術中はまったく痛
痒さを感じなかった。それどころ
か、昼食抜きで手術がおこなわれ
たため腹ペコになり、夕食が配膳
されるや否やベッドに起き上つて
バクついている所に、手術の先生
が回診され、「イヤーお元気です
ね」とびつくりされたが後がいか
なかつた。ややしばらくして吐気
をもよおし、二度嘔吐をくりかえ
し、それとともに痛みがはじまり、
三、四日つづいた。その辛らさと
いったら、筆舌につくしがたい。

商工会議所副会頭に 滝沢宇平氏 56回



このたび新潟商工会議所の、
役員改選に伴い、新しく滝沢宇平
氏が副会頭に選任されました。
新潟商工会議所としては始めて
の昭和生れの副会頭の誕生であり
各方面より、氏の若さと実行力、
卓抜せるリーダーシップに対して
大きな期待が寄せられている。
滝沢氏は元新潟青年会議所の理
事長として、あるいは日本青年会
議所の常任理事、北陸信越地区協
議会会長として富山・石川・福井
長野・新潟の、若手経済人のよき
リーダーとしての数々の実績を残
されており、また、全国的な交友
知己の広さ等が、今後新幹線、高
速道路等の完成に伴い、益々広域
的な発展をとげつつある新潟の経
済界にとって、新風をもたらして
くれるものと期待されている。同
窓の等々力会頭を助けて、一層の
活躍をされますよう、同窓各位の
スクラムとバックアップをもちあ
せて期待するや切であります。



No.1 ハバロフスク、カールマルクス通りの露店本屋。
ハバロフスクの人口は五十万。
市民一人当りの公園緑地の保有は
二十平方メートル。ちなみに新潟
は〇・八平方メートル。たわわな

ちがった国への近い旅

62回新谷 稔

ですよ」という。「有窓義眼」で
ある。無色透明の、コンタクト・
レンズの親玉みたいなヤツに、な
るほど二ツも孔があいている。こ
の孔から縫合した眼玉の奥をのぞ
いてきずのなおり具合を見るため
らしい。こわいものみたさに私も
点眼の折 鏡で見たが透明の義眼
の底に眼玉の内部がうつるのか、
兎の眼玉のようにマツカで、まご
とに気味がわるい。妻や娘は顔を
そむけてしまう。
手術後三週間ほどして正式の義
眼を入れてもらうことになった。
医師は有窓義眼をはずして、こん
どはほんものそっくりの腫のある
義眼と取り替え、そして理髪屋が
客に刈り具合をたしかめさせるよ
うに鏡を見せさせてくれた。赤眼大王
のようにだつた眼がきれいになつて
いた。ふと、私は「画竜点睛（が
りようてんせい）」という古い言葉
を思い出した。
【小田急不動産取締役社長】



No.2 レーニン広場の朝（ハバロフスク）
四十度に近い暑さと、夜の十時
ころに落ち、朝は四時に出る太陽
がねむることを拒む。
四時半に公園の掃除がはじま
つた。広場をよこぎる人を数えて
五百。やつとねむい。八時。
編集部 註
去る六月十五日に、新潟県民待
望の日ノ間局地航路が開設され
日本航空の第一便が、新潟空港を
飛び立つて行きました。この第一
番機には、新潟市長、新潟商工会
議所会頭等新潟の各界より選ばれ
た親善訪問団が乗っておりまし
が、新谷氏も、新潟青年会議所直
前理事長として、ご招待を受けて
行つてまいりました。その折の写
真等をのせていただきました。



（稲葉元文部大臣と筆者）
No.3 バイカル湖（イルクーツク）
ハバロフスクから飛行機で三時
間半。三百五十年の歴史をきき
だ町並みは落着いていた。一時間
ほどバスは原野をまっすぐ左右に
かきわけて走ってバイカルに到
つた。つめたい水だった。

海外報告特集

欧州税法夏期大学

59回 笹川一雄

税理士

昨年八月、日本税理士連合会主催の「欧州税法夏期大学」に参加し、三週間にわたりヨーロッパ各国の税制および職業会計人制度を調査視察して帰った。やはり「百聞は一見に如かず」、各国の職業会計人との懇談を通じ、又実際にシヨッピングをしてみて、実感として各国の租税制度を知ることが出来たのは大きな収穫であった。

税制は各国の国民性を集約したものの一つであり、同じE.C諸国内でも例えば「付加価値税」に対する考え方についてもニュアンスの違いがあるようだ。

いずれにしても、古今東西、税の重みは共通した悩みといえる。ヴェルサイユ宮殿の豪華な調度品をみていると、フランス革命の発火点の一つが、「重税」に対する民衆の不満の爆発であったことがよくわかる。わが国でも特に所得税の減税にける政治的圧力は常に大きい。又、反面遅れている社会資本の充実も急がねばならない。これらの国民的要求を同時に満たしながら、「高度福祉社会」を実現するために、税制面からも長期的な展望と、慎重なる検討を

研究は勿論必要であるが、日本と欧米の国民生活の歴史的背景と、考え方の違いは無視出来ないであろう。私も職業会計人の一人として、税法の適用解釈のみならず、税制についての研究と提言も重要な責務の一つと考えるものである。

夏の夕方、アテネのアクロポリスの丘に立って、神殿の大理石の柱に手を触れながら、あらためて「日本とは」そして「日本人とは」ということを考える機会を得たことは、わが人生の貴重な体験であった。

ビジネスだより

広州交易会

60回 橋本行雄

橋本商事(株)専務取締役

中国輸出商品交易会に参加の為、羽田よりジャンボジェットに乗る。香港側国境駅の羅湖から歩いて鉄橋を渡り、中国側の深圳駅から乗った汽車は冷房もきき快適で、中国製のサービスが嬉しい。「殆ど自動車を見ませんね、皆よく働いていますね」と車窓から田園風景を眺めていた隣の人が感想をもたらし、交易会の開催地である広州市は人口三〇〇万、広東省の首都で、中国南部の大都市である。亜熱帯に属する関係か四月末は流石に蒸し暑い。二〇数階のホテルの部屋は広々として居心地が良いが、冷房はない。服務員が純朴親切で、

盗難の心配は全く無く、ドアも開け放し、何ら固苦しさがないのは別世界の様な気がする。悠々と珠江が流れ船が行き交う一方道路は自転車の流れが引きも切れない。自動車は少く、それが人、自転車の合い間をぬつてよく警笛を鳴らすのが耳障りだ。交易会々場は三会場に分れ、それぞれ中国の粹を集めた展示と商談室がある。中国の発展ぶり、技術水準等が良く理解出来る様工夫されている。ただ今回の特色は世界的インフレを背景にしてか、いずれの業界の人の話からも価格の高騰についての戸惑いが強く感じられる。私の参加目的は主として農産物の輸入である。中国側輸出の窓口が一本で、しかも農産物が国際商品である事から、これまで度々逆輸入(中国での契約値より日本国内の相場が安い)に泣かされて来た。それだけに取引の厳しさは充分認識していたつもりであるが、昨年新聞紙上を賑わしている世界的食糧不足のためか、友好ムードの強い中で、実際の商談は予想以上に厳しいものであった。中国各地から公司の担当者や広州に集り世界のバイヤーを相手に商売をする訳だが、中国側の徹底した勉強振り、夜十二時近くにアポイントを入れてくる熱心さには敬服した。町での人々の服装は実用本位で、決して立派とは云えない。食生活も我々旅行者には安価で最高の中国料理を満喫させてくれるが、一般にはそれ程レベルが高いとも思われない。しかし人々の顔には活気が溢れ、特に交易会に参加している人達は建国の意気に燃えている。その熱意がひしひしと身にせまる。数年前訪れたアメリカのヒッピーが対称的に脳裏を去来した。帰路香港で商社の車を借りて十年振りて香港島を一周した。ゴールデンウイークの為か、何処でも日本人観光客の団体に会う。物質的にある程度充足した我々は逆に精神面で立ち遅れに悩みはじめた。観光に現つてぬかして、心の充実感がどれだけ得られるのであろうか。一週間振りで見える超ミニスカートに目を廻し、シヨッピングの駆け引きを楽しむ乍らも、中国のあの純朴な親

切が懐しく、建国の意気に燃える若人が羨ましく感じられた。全くのビジネス出張で、しかも場所柄、紙面の都合で無味乾燥になるからと当初お断りしたのであるが、地域にバラエティをどの編者のご意向を尊重して、拙文を書いた次第。果たしてご主旨に添い得たかどうか、同窓の誼でお寛し願います。

Sさんへの便り

73回 土肥 紀子

第四銀行本店

旅から帰って10日になりますが、お元氣ですか？ 第三回JCAアジア青年の船では、楽しい時間を一緒に過ごせたことうれしく思います。あなたは、この船旅で、どんな感想を持たれましたか？

海辺育ちの私ですが、ほんとの海の良さがわかったように思います。大海原の蒼さ・広さ、リズムカルな船のローリング、潮風のにおい、そんな環境は、私の心を解放し、今までと違う、もつと広くゆとりのあるものを見方を教えてくれました。

村松剛先生の熱の入った講義は、私達に「日本の進むべき道」について真剣に考える指針を与えて下さり、大庭照子先生の「歌と人生」の歌をまじえた話は、完全に、私達を魅了し、青年の船に二つのテーマソングを生みだしましたね。また、愛想のよい中国人ウェイターのいる船内レストランでは、九州の人、奈良の人、北海道の人、ほんといろんな地方の人とおしゃべりが、フルコース・メニューの味を、一層おいしくさせてくれました。そう、最初にあなたが



お話ししたのも、レストラン。覚えてますか？ 中華の夕の春巻が熱々だったあのときです。

マニラ、シンガポールに寄港して思ったことは、国土の美しさや人々のびくした明るさです。文化や経済の発展は、国際ルールを守らなかつたり、生活のゆとりを置き忘れてしまふような発展では、間違っていると思いました。10日間の航海のはてに着いたシンガポールからは、わずか7時間で、羽田空港に帰ってきました。高スピードの陰には、多く見ることもない大切なものがあることを忘れないようにしたいものです。さよならパーティーの盛況は、未知の仲間から信頼と連帯感のある仲間へと成長した表われであったでしょう。多くの発見と、考える糸口を見出した旅でした。この船旅は、マニラの娘さんに載いたサンパギターの花のように、いつまでも香り高く爽やかな想い出となるでしょう。

今度は、あなたの感想を心待ちにしています。

七月六日 土肥紀子
船の友Sさんへ

(注) JCAアジア青年の船は、日本青年会議所が主催する研修船です。校友の第67回石田瑞穂さん、第68回佐藤豊一郎さんのお二人はJCAのリーダーとして、第66回内田定寛さん(日通)はエージェンツとして参加され、心強い限りでした。

意気あがる青山スポーツ界

初陣飾った応援旅行 青山バド・クラブ再スタート

酒とバクチで会費集め?

バドミントン部のOBたちが、酒とマジヤンにつられて? コ部屋に入られた。このあとごっそり自動車に乗せられて、着いたところは高校生の試合会場。はしたなくも蜜声をあげて応援。これが効いたのか、そんなに強くないはずの選手たちはハッスル。気がついてみると十四年ぶりの団体優勝。ここ数年間、停滞気味のOB活動だったが、再建をもうろんだ企画は大成功。

第一回の親睦会が六月九、十の両日、十五人のOBが出席して、南浦下田村・長野温泉で開かれた。九日から三日間、長岡市で開かれているインタハイ県予選に、会合のあと大挙して応援に行こう、という趣向である。

今回の親睦会の目玉はマジヤン大会。高校時代は、正視出来なかつたほどおっかなかつた先輩たちも、いまやカアちゃんのリリに敷かれた自称「亭主閑白」とわかつているから、やりやすい。しかし腕前と毒舌は、卒業年度が早い先輩ほど一日の長。後輩いびりはまだ続いていた。結局、役満が四つも出た。「き

つと、あすはアツというところが起るよ」さて、吉と出るか凶と出るか……。

宴会では、自己紹介を兼ねて思いついた話に花が咲く。創設期のいきさつ。シャトル・コックを買うお金がなくて、鳥屋から羽根をもらって、授業中にシャトル作りの内

校生は大奮闘。接戦の末、三条商に3対2で勝つてしまった。練習でみせなかつた力を発揮したが、OBが現役に対して与える心理的な影響の大きさを改めて知らされた。

応援旅行といった感じの、ちよつと変わった企画だが、このいきさつは次のようだ。

バドミントン部は過去に、連続十年全国大会に出場し、団体三位ダブルス三位など輝かしい戦績を収めていた。しかし三十年余りは、県予選で万年二、三位と、パツとしなかつた。

一方、OBは、経済的、技術的に援助を続けてきた。しかし年々、クラブ総会などに顔を出すことが少なくなり、後輩の技術指導にも力が入らなくなってきた。この原因は「OB会が後輩の赤字補てん団体に陥って、カンパだけの付き合いになってしまった」などの意見が出され、組織の改革をせまら

れた。

その結果「OBが集まらなくて後輩の育成もおぼつかない。もつと集まりやすく、親睦を目的とした会を結成しよう」ということで、三月、名称を「青山バドミントンクラブ」(会長・関根幸二、59回卒業)として新しく発足。年間会費は新潟在住の会員は六十円、県外の地方会員は二十円、学生は五百円。また会費を徴収しないがクラブに關係のあつた人は会友として、精神的に応援してもらふことになった。現在まで会員二十八人、学生会員二十人と、かなり

沈没しかつたOB会も、これをきつかけに再び浮上。早くも後輩に対して数万円の援助や、密度の濃いコーチを予定している。またOB間の親睦を深めるため、釣り大会、ボウリング大会、ゴルフ大会などを計画し、ムードは上々である。

こうした中広い登山活動と、二回のエベレスト登山の経験が高く評価され、今度のエベレスト南壁登山隊員として選ばれたわけだ。氷河の奥に黒々とそそり立つ高さ三千米の未踏の岩壁は、今日、世界の登山界に残された最大の目標であります。石黒君の活躍を願つてやみません。

山岳部OB

石黒君三たび

エベレストへ!

新聞報道で御承知の方も多いと思いますが、今秋のエベレスト南壁登攀遠征隊に石黒久君(四十年卒)も選ばれ、参加することになりました。

石黒君は、在学中山岳部キャプテンとして活躍、三年の時には

新潟国体の山岳部門に県代表として参加、最優秀メンバーとして表彰されました。卒業後は、日本大工学部に進学する一方、登山では社会人クラブの鵬翔山岳会に所属、今日に到つております。この間、大学二年の時には北アルプ

スを単独で全山縦走(白馬→後立山→鳥帽子→槍→穂高→三俣蓮華→薬師→立山→剣)、黒部深谷大タテガビン、槍岳赤沢南壁等の初登攀記録をはじめ、夏、冬ともに日本登山界の第一線で活躍してきました。そして、六十九年及び七十年には三浦雄一郎氏のエベレストスキー遠征隊に請われて参加、エベレストのサウスコル(八〇〇〇米)でスキー滑降の支援活動をされ、優れた技術と、中広い人間性によって、三浦氏のスキー滑降を成功にみちびきました。ついで七十一年には北米のロッキーマウンテンを歩いて一層の見聞を広めて来ました。

七月二十日に出発、十一月帰国の予定で、順調にゆけば十月に山頂に立つ予定との事です。

エベレストで各登山隊が基地として使っている六千米の小高い丘に、一基の慰霊碑が建立されています。これは、私達新高の山岳部の仲間中村慎一郎君のもので、中村君は、前記石黒君のあと山岳部キャプテンとして活躍、卒業後一橋大学に進学、山岳部に入部しました。ここでも、彼の人柄と技術は高く評価され、活躍が期待されておりましたが、不幸にして一九六八年五月の春山合宿で、北アルプス鹿島嶺で不慮の事故により天逝しました。彼は高校時代からヒマラヤに憧れ、エベレストに闘志をみながら生きていました。この彼の霊をなぐさめるため、石黒君が六十九年の遠征の折に建立したものです。エベレスト、ロツエの八千米の山々に囲まれた展望のもつともすばらしいところに立っている由、建立後、中村君と縁のあつた人々が毎年訪れ、もうでてくれているとの事です。

石黒君の活躍を、中村君の霊も見守つていてくれることと思っております。

(写真はエベレストに立つ中村君の慰霊碑 故安久(成氏撮影))



青山陸上競技部

健闘す!!



昨年の後半から、今年にかけての陸上競技部の活躍はすばらしいものがあつた。昨年の9月末、三条市で行なわれた新人大会で総合優勝をなすと、当時の三条新聞に「本大会で特に目立つたのは、新潟高校、柏崎高校など、普通高校の活躍で、これまで首位を保っていた実業高校の座を奪う競技となり、陸上本来の姿になつたと関係者をわかせた。大学進学校としての、普通高校の場合、近年はスポーツやクラブ活動が低調になりがちだが、新潟高校のように、修学旅行をやめて、練習にうち込む学校がでてくるなど、スポーツに対する意識が、普通高校でも強まっていることが、ありあろうかがある大会だつた。」と記載されたが、その時の主力メンバーが現在3年生となつて活躍しているだけに期待されるものがあつた。県下短距離界のホープ、宮村伸一は、百、二百、四百のタイトルをとり、文字どおり三冠王となり、二百米では、昭和43年インターハイで三条高校の馬場選手の出した県高校記録を破り、県高校新記録を樹立、四百米でも、五十秒一的好成绩をマークしており、鹿兒島国体・沖繩国体に選ばれ大いに活躍した。今年のインターハ

輩に顔むけができました」と歯きりのいい言葉がかえつてきた。よく頑張りぬいてくれた、今のメンバーの中にも途中で何人か退部を申出た者もありました、その都度二つの事を満足に出来ぬ者は何をやっても大成できない。己自身に克つことだ。随分無奈をいつたのですが、二年生になつてからは、むしろ私の方から練習をセーブしたいくらいでした。チームワークに抜群です。練習外の学校での生活も、休時間、昼食いつも一語のようですから……インターハイの予想は……、やや期待されすぎの感があります。特殊な雰囲気の中でレースですから、心身共に最良のコンディションが必要でしょう。雰囲気にもまねなければいのですが……、リレーは、地区大会で百に優勝、走中に第一位となつた。キャプテ

ンの三条俊彦が百米のレース最中に肉離れをしてしまい、県大会まで回復できず、本人のフラットレースを失つたのは気の毒だつた。リレーにも大きく影響してしまひ勝負強い、彼の欠場で北信越大会では非常に苦戦してしまつた。彼の復帰いかんで何とかならず通過したいものです。宮村は昨年比べてレース展開が非常にうまくなつた。特に後半の弱点が克服されたのは収穫です。四九秒台の声が早く聞きたいところです。インターハイでは進決が彼の課題と思ひます。とにかく参加できたという課程こそが彼等には最も大切だと考えます。

八月一日から三重県伊勢市中で開催されるインターハイでの活躍を祈つてこの稿を閉じます。

二人入学八名。現在一五一名。「それなのにわがクラスは」という悲哀とあきらめと安堵とが適当に複雑に混在する。ヤメモ組の共通項 概して教室がキタナイ。学年中、すぐデキルかその逆か、クラスマッチによいとか、全く逆とか、何れにしても判然とした性格をもち、たとえていえば、往年の戦闘機零戦、戦艦大和の如く、その栄光と悲惨がそのおりにきわだつた。

脱…… 四十四年秋を頂点とする学校紛争の面影は、全くない。何度か険悪な空気がえただよう前庭では、夏の陽さしの下、ピニール入り水「チュウウ」を手にした連中がベンチで三五五、HRでの時事問題などは新聞の「健全な常識」と儀礼を踏みはずさぬ何もかも忘れ去つた訳ではないのだし、世間の風向きによつては予断を許さぬ事態もある。ともあれ、いま四年前にくらべれば貧るように平和をたのしんでいるとしてよいのだから。いや違うかなと教師の間の後遺症は脱政治の当今も、心の中にあるようだ。

剛 健 春から対外試合の成績がよい。インターハイ団体出場四チーム。遠征費が嵩れつく般賑がり、一年生のクラブ加入も最近出色ではなからうか。体育を二限に終わると楽しろがなくなると日誌に書く。青白い受験校の暗さは入つてみれば何もない。ミニスカートや長髪で、青山音頭はスタレでも、七十年代の「剛健」はこういう形で残つている。

当今

青山氣質

青山会館 三限終了と同時に教室をとびだす。廊下を走りながら自然にいくつかの集団となつて、「ここへ行く」「青山だあ」「正面玄関をでて右へ突進」「オレ……」は真直ぐ校門前。躊躇や迷いの許されない新潟高校の二十分の「昼どき」だ。同時刻パン売場も人の渦。氣迫すただよう生徒に押し

れて、教師は遠まきに眺めている。そして四限終了後の昼休み、先刻の負け大たる「おとなたち」がテابلにつき、勝者の余膏を頂戴する。

ヤメモ 三学年三十クラス中、女子のいないクラスが八つある。ヤメモということばの流行は二十十年來のことである。二十五年女

八十一周年 七月二日、教師「昨日が八十一周年だ。昨年の記念誌読んだか」生徒「読みました。その前に、日曜と重なつたのに何で休みにしなかつたんです。」教師「……」青山創立の七年前道達先生もいっている。「書生の変遷とは何をか

小武内尚三君 昔のま、の早口、面ざしもあまり変らず、燕の洋食器製造販売どうやら仲さんも商売に馴れきつたので先づは安心というところ。(九頁上段へつづく)

三十九回

一人衆

六月十七日 六時起床、七時朝食、ここは新装成つた国鉄妙高山荘、「風かおる妙高々原の朝……」と申し上げたいが、梅雨含みの空は、どんよりとして、望遠の妙高山の雄姿も曇り空のためよく見えな。昨夜は一泊、ゆつくり湯につかり既往を語り、今朝は朝酒の一本人にその延長戦というところで笑声が絶えない。

四十年の年月はお互のオツムの毛や体つきを変えたが、音声は昔と全く変らない。これは商売用の声を出す必要がないためと思ふ。

此度は同期七十人に案内したが公私多忙のため欠席四十一、返信のない者十八(忙しくても返信だけしたのみますヨ)そこで出席選抜軍十一人を御紹介。阿部助哉君 新潟三区 社党代議士 県議か

人も年を経て沈着になる事なり。書生の頃放蕩なりし者が、却つて老実なる實際家となるあり。或は卒業して用いたたざる事あり。或は浅学にして用ひらるる事あり、其変転は万状千態……」と。万状千態の未来にこそ自分の書生すべてが。青山をかえりみるだろう。 本校教諭 星 智信

出て昭和四十二年三選 新発田市を中心に故井伊織一の地盤を継いで健斗中。中学当時からの小柄で大声、精気満々、嬉しそうに毎度ジャン卓をかこみ徹夜のボン。今後の勇戦を期待す。早大校友。 味方恭一君 サッポロビールの味方商店自営 男の子三人とも県高入学、三男は三年に在学中。「今日の青陵祭を見にきてくれとたのまれてネ」と朝食も早々にして駅に飛んでゆくよきオヤジさん、その気持分りやすく。

(八頁よりつづく)

佐藤一義君

龜田町の佐藤サマ。俗名ナンバ

異色銀行員、黒々としていた看板の口ヒゲも今は白く、それに此度は辛ヒゲが追加されている。「酒とトウフがあれば生きていられる」と仙人の境、悠々自適、酒量は一日一升とか。

藤巻行也君

附小からの旧友、小柄でクルクルよく走り廻っていたその頃のコーヤチャン。浮世の表裏をよく生き抜いて只今は新潟に定着、交通業界誌を経営発行中。

皆川登良夫君

昭和六年の新中野球部主将、卒業以来好きな野球をつけて暮らしてきた幸せな男。国鉄退職後は市体育課で市民の保健体育を指導している。白髪と日焼けした顔がよく似合っている。

福山ヨ

競技部で百米はおれより早い奴はいなかったな」とまことに物覚えのよいのが玉にキズ、トラヨいつまでもその元気で。

桜井豊治君

黒い目玉 つやのよい黒髪、小肥りの体に黄色のシャツを着た姿は元氣ハツラツ、若い。かつて市中のN運動具店支配人として同店を盛業の今日に押し上げた力量は知る人を知る。新潟を去り東京の業界誌編集に転じてから既に八年。我が三九会生みの親の一人である。

杉崎 晋君

大正は遠くなり西堀幼稚園からの友達である新中当時は水泳部の選手で、すらりとした長身の美少年だったが、卒業以来の初対面では見事な光頭「福山君、キミまだある方だよ」特有のおだやかな話しぶりは昔のま、だ。農林技師が途中で転進、浦和市で通信機用の銅線製造工場を経営中。盛業を祈る。

木村豊雄君

俗名 宮サマ 同期一等のスタイリスト。中学時代からゾボンの折目はピンとして皮靴もピカピカ(だったように思う)。通産省雑貨品課に勤務、只今は輸出小間物会社の役員、今日もブルーのリントシャツに変わったムギワラ帽子「ウフ……」という含み笑いの声

福山 味方

桜井 杉崎

木村 阿部

小武内 伊藤

吉田 藤

皆川 藤巻

も四十年前のま、だ。雀百まで、宮ヨ大いにしゃれこいて長生きしてくれ。

吉田 二郎君

中学時代から英語が得意らしく

つたが外語のフランス語卒で東北電力へ入社。現在は同系子会社の東北ポール新潟所長。生家がコンピラ通りの洋品店だったので古い下町情緒に詳しく、交友が広い。

福山 味方

桜井 杉崎

木村 阿部

小武内 伊藤

吉田 藤

皆川 藤巻



玲瓏会の記 58回クラス会

最近、関屋念仏寺の近くに新居を建てたが、小生宅と背中合せというのも妙な因縁だ。三九会の会合や何彼どうまくゆくのも彼の手助けがあればこそ。
さて次は、福山健。運送屋に変わってから十年たつたがさっぱり板につかない。天井知らずの労務費と相変らずの現場作業員の手不足には日本の先行きが想いやられる。おかげさまで一男一女ともよき相手を得て家を出ていったので、只今は古女房と二人暮らし。三九会の世話が出来らうちは幸せだと思ふ。今年の十一月に孫が五人となる。我が信条「背伸びしないで歩け」(福山記)



第58回卒業の私共は「玲瓏会」と称し、回数の日、即ち毎年5月18日に同級会を開いて居ります。今年には東堀前9の新築成った割草大善で午後6時から渡辺秀英、土岐元春両先生を迎え、例年より、や、少ない18名の参加で行いました。
両先生は益々お元氣のご様子で、

最近のお仕事、感懐を述べられる挨拶があり、次いで昨年末の総選挙に敢然立候補したが、一敗地にまみれた同級福田満君から「諸君の期待、応援に応えられず、残念あれ以来居る新潟に構え、捲土重来、次回を期す」との発言があり、一同拍手で声援を送りました。宴会では想い出話に、仕事、遊び、家庭の話にそれぞれ働き盛り、遊び盛りの年頃であるだけに歓談は尽きませんでした。記念撮影、各自の近況報告と進み、校歌、応援歌を斉唱し、最後に暴力団長渡辺先生)の音頭で万才三唱して会を終り、折から降り出した雨の中を三々五々の会場へ散って行きました。

私共の年代は昨年40才の厄を経り、漸く体の老化を感じるようになります。近況報告でも腰が痛むとか体の不調を訴える声が多くあります。お互い今後其真面目な生活態度で体調の整備に心掛け、毎一年一回は健康な顔合せを。この加藤高弘記

昭和二十八年卒第六十一回生は卒業二十周年祝賀会を去る。月十七日、鳥屋野「湖畔」に於いて開催した。いわれる、新制中学校より入学した第一回生であり、学校の歴史始まって以来初の女子入学という記念すべき学年でもある。
これ迄、級会は各級適当にやっていたが、学年を通じての機会はなく、一度「全員集合」の声は数年來あつたのだが先輩諸氏の例にならい二十年目を選んだ訳である。飄々とした人柄で、今も我々卒業生にとつて人気抜群の大橋先生同期の高橋照君、江口良助君、竹山恒夫君、岸田哲男君、須貝伸三君、それに交通グループの中野進君、山際俊雄君、小島汎君等数回に亘つて会合し、準備を進めたのであるが、年令的に37才・38才と各分野の中堅として活躍中の人達であり、勤務地も全国に誇つており、勤務地による住所変更等連絡に苦勞したが漸く開催準備完了。さて、当日の出席者であるが、

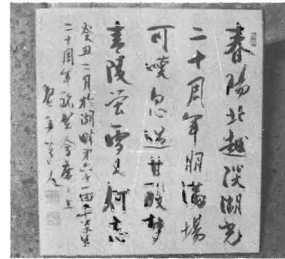
卒業二十周年 記念祝賀会 61回

湖畔に集う64名

恩師10名(順不同) 渡辺先生(新大講師)、土岐先生(敬和学園高校)、松田先生(六日町女子高校)、沢山先生、武田先生(青陵高校)、池先生(郷土資料館々長)、大橋先生(新潟高校)、宮部先生(新津工高校)、阿部先生(新潟高校)、三浦先生、卒業生は遠く姫路より千代沢彦康君、東京より中村正春君、久須美博君、宇都宮より藤田太郎君、鶴岡より小林貞夫君、紅一点佐藤幸さん(旧姓上村)伊藤英子さんの参加を含めて54名、合計64名に達した。

江口君の司会により新旧校歌斉唱、今はじき七名の友に一分間の黙祷を捧げた後開宴となった。恩師代表土岐先生は、初の女子学生を迎えてトイレの設備がなく、また更衣室及び体育授業に困った話等ユーモラスな懐古談を交えてご挨拶された。

何しろ20年振りの再会であり、頭の禿げた人、白髪の人、肥り過ぎの人等昔の面影と大分変わっており、幹事のアイデアによる胸の名



札を頼りに懐旧談に花が咲き、血中のアルコール濃度が増すに従い声も大きくなり隣の人の声も良

く聴き取れぬ位である。会場に飾られた大応援旗及び「青陵健児」の幟をバックに岸田团长、川口副团长音頭による応援歌が始まるに及んで祝宴はクライマックスに達した。先輩恩師の松田先生、沢山先生、渡辺先生も応援旗を手に昔日の美少年の感じである。ややあつて恩師胸上げ(お年の関係もあり、ソフトにやりました)、校歌斉唱で一次会の幕が閉じられた。引き続き会場を「八郎津古」(同期渡辺君の厚意により全店開放)に移し、全員参加で二次会の開宴となった。席上、琴舟道人こと渡辺先生は、次の即興詩を執筆下さった。

幹事 伊藤良介

昭和47年度 青山同窓会費納入者追加分 (1月~3月納入のもの)

Table listing members and their contribution numbers. Columns include member names and their respective contribution numbers (e.g., 第21回, 第28回, etc.).